

NII-Electronic Library Service

睡眠の規則性の因子と考えられる。オ6因子では、42
魚の骨などをよりわけて食べる、41食物を口に入れた
ままでは話さない、40与えられたものは好き嫌いをなく
て食べるなど、食事に関する行動の項目に負荷が高いこ
とから、食事の因子と考えられる。オ7因子では、11
おしっこは一人で完全にできる、12トイレにいくとも
便器や衣服をよごさないなどの項目に負荷が高く、排
泄の因子と考えられる。オ5因子では、26だめかつい
ていなくてひとりでおねむれる、おねむになると寝床
についてひとりでおねむるなどの項目に負荷が高く、睡眠
の自立性の因子と考えられる。

以上のような結果から、男女の因子をそれぞれ比較

してみると、食事に関する因子は女兒にみられるが男
児にはあてはわれていない。また女兒のオ1因子のよう
なものは男児にはみられない。

しかし男児のオ2因子と女兒のオ7因子はともに排
泄行動に関するもので似ており、男児のオ4因子(睡
眠の自立性)と女兒のオ5因子は両者ともよく一致し
ている。

以上のようなことから、いくつかの因子については
男女間で類似したものがみとめられるが、やはり因子
論的にみて両者の因子構造は異なっているといってい
てよいであろう。

表 1 基本的生活習慣の因子負荷量 (男児)

F-1	F-2	F-3	F-4	F-5	F-6	F-7	F-8
35 679	13 -742	28 -671	30 781	38 635	16 -613	23 501	41 533
3 628	17 -630	29 -575	26 652	12 620	18 -603	10 457	37 -436
15 559	11 -565	4 -417	42 392	36 584	31 -564	7 431	6 -384
10 393	21 -352	34 377	33 375	2 385	33 -501	5 395	2 -378
8 387	39 -343	18 -351	32 318	23 340	14 -428	9 387	25 -341
4 384	12 -322	27 -350	19 314	34 339		19 365	8 -330
39 384		21 -317		3 336		6 325	
22 324		25 -309		20 324			
E.V. 2.69	2.07	2.30	2.29	2.45	2.13	1.68	1.52

表 2 基本的生活習慣の因子負荷量 (女兒)

F-1	F-2	F-3	F-4	F-5	F-6	F-7	F-8
14 606	27 724	15 786	25 -628	29 686	42 585	11 -921	26 601
31 601	1 703	2 520	17 -492	33 679	41 573	12 -921	30 588
16 556	6 621	22 429	35 -403	28 449	8 553	32 -352	13 414
38 492	10 464	7 429	18 -358	18 332	40 508	21 -332	32 372
18 414	7 430	37 423	23 -354		36 448	16 -322	
36 367	39 394	20 363			38 420	19 -300	
7 355	35 330	5 362			39 375		
37 353		16 -349			5 349		
10 321		35 308			3 330		
39 320		21 307			23 329		
					37 320		
					4 317		
					9 300		
E.V. 2.34	2.70	1.52	2.03	1.50	1.54	1.52	1.55